

おうちの方へ

お子さんが課題に取り組むときの参考にいただければと思います。

音読や丸付けのご協力をよろしくお願いいたします。

国語

漢字ワークシートの取り組み方

テストのように何も見ずに取り組んでも、ドリルを見ながら取り組んでもかまいません。お子さんのやりやすいやり方で取り組んでみてください。

ふきのとう②ワークシートの取り組み方

③はできればお家の方が音読を聞いてあげてください。そのほかはひとりで取り組むことができるかと思いますが、難しいようなら、助言をお願いいたします。お手数をおかけいたします。

① だれの ことばか かきましょう。

難しい場合は、「竹やぶの 竹の はっぱが」や「竹やぶの、 そばの ふきのとうです。」などの、ことばのまわりの記述をヒントに考えさせてみてください。

② ヒントを さんこうに ふきのとうの ことばを どう読むか くふうしましょう。

ふきのとうや雪になりきって、動作化してみるとイメージがわきやすいと思います。

③ くふうをいかして みぎにかかれているところを 三かい 音読しましょう。

できればお家の方が音読を聞いてあげてください（難しくればひとりで取り組ませてもかまいません）

読み方に唯一の正解はありませんから、本人なりに工夫していれば、どんな読み方でもかまいません。

1回ごとに異なる読み方で読んでも、同じ読み方で3回読んでもかまいません。

③どんなことを くふうして 音読しましたか。

解答例はあくまで例なので、解答例通りでなくてもかまいません。

書くのが難しい場合は、音読を聞いた感想を伝えてあげてください。

算数「表とグラフ」（教科書P11～12）

〈ステップ1〉（教科書をつかう）

①教科書P11の黒板の絵を見る。

（前回、自分が並べたカードの写真があれば、それとも見比べて、同じところや違うところを見つける）

質問「10ページの黒板の絵と見比べて、どんなことが、分かりやすくなったかな。」

例「たてに、きれいに並べてあるよ。」

「どんな野菜があるのか、種類が分かるよ。」

「人数が多い野菜が、分かるようになってきたよ。」

質問「野菜の種類ごとの人数を、もっとわかりやすくてできないかな。」（P11 ゆきさんの吹き出し）

②教科書P11の、みなとさんと、かえでさんの吹き出しを読む。

質問「人数を、分かりやすく表すために、どんな表し方の工夫があるかな。」

「みなとさんと、かえでさんは、どんな表し方を考えたのかな。」

〈ステップ2〉(プリントを使う)

①グラフに、トマトの人数分、○を書き込む。

質問「トマトを育てたい人は、5人だね。○は、いくつ、かけばいいかな。」

☆ポイント☆ ○が1こで、1人をあらわしている。

○は下から、かいていく。

問題「わかるかな」

グラフを見て、そだてたい人が一番多い野菜と、一番少ない野菜を()に書き込む。

②表に、人数を数字で書き込む。

質問「グラフの○の数を数えて、野菜の種類ごとに、人数を数字でかこう。」

「まず、トマトは5人だね。表の、トマトの下に5をかこう。」

☆ポイント☆ グラフの項目(トマトやナス等)と、表の項目が一致していることを確かめる。

グラフから、それぞれの野菜の人数を読み取って(○を数えて)、表に表す。

問題「わかるかな」

表を見て、オクラを育てたい人の数を()に書き込む。

③まとめ

教科書P12の「なるほど!」の、吹き出しを読み、グラフや表に表すことの良さを考える。

☆ポイント☆ グラフに表すと、多い・少ないといった数の違いが比べやすい。

表に表すと、数がひと目でわかる。

生活「ミニトマトたねのかんさつ」

・教科書(下)P9、12に載っている観察カードを参考にミニトマトの種の観察する。

・1番上の欄に「ミニトマトのたね」と書く。

・2番目の欄に観察した日、天気、名前を書く。

・大きな枠に種の絵を描く。(枠一杯に大きく書く。)

・種を観察して、気づいたこと、分かったことなどを書く。

〈見つけたこと、調べたこと〉		〈考えたこと〉	
・におい	・大きさ	・ふしぎに思ったこと	
・手ざわり	・おもさ	・びっくりしたこと	
・色		・わかったこと	
・形		・こうなればいいなと思ったこと	
	など	・やってみたいなと思ったこと	など

※観察カードを家庭のプリンターで印刷する場合は、そのままの大きさ(B5)で印刷してください。

(A4の用紙に印刷する場合も、拡大しない。)